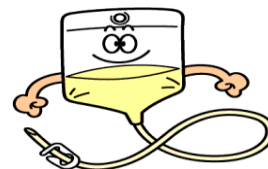


# 外来化学療法室ニュース No. 20

2011/12/5

今回は、標準治療の意味と投与量の決め方について紹介します。



## ☆ 抗がん剤標準治療とは ☆

標準治療とは、科学的根拠に基づいた観点で、現在利用できる最良の治療であることが示され、ある状態の一般的な患者さんに行われることが推奨される治療をいいます。

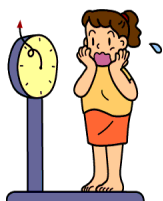
つまり、ある病気・病状に対する治療法が効果や副作用などを調べる臨床試験の結果、既存の治療法より優れていた場合に新たな「標準治療」となります。

標準治療の内容は、多くのがん種で治療ガイドライン(治療指針)が作成されており、知ることができます。自分が受けている治療が適切なものかどうか、一番よい治療法は何か、自分に合ったがんの治療を進めていくためにも、標準治療について知ることも大切です。

但し、病状によっては、必ずしも標準治療が最適な治療とならないこともあります。

治療の目的や治療方針、治療受けるメリットとデメリット(良い点と悪い点)などを主治医に確認しながら、治療をすすめていきましょう。

治療方針に不安なときは、セカンドオピニオン外来を受診することもよいでしょう。



## ☆ 投与量の決め方について ☆

抗がん剤は、他の薬とちがって効果が現れる量と副作用が現れる量が非常に近いという特徴があります。ですから、抗がん剤の投与量は、患者さん毎に身長と体重から割り出される体表面積を指標として決められています。

例えば、Aさんの身長 150cm・体重 50kg の体表面積は約  $1.4\text{m}^2$ 、

Bさんの身長 180cm・体重 70kg の体表面積は約  $1.9\text{m}^2$  となります。

この A さん、B さんにある薬剤を体表面積あたり 100mg 使用する場合、

A さんは140mg、B さんは190mg の薬を投与することになります。

**\*体表面積を求める式 体表面積=体重<sup>0.425</sup>×身長<sup>0.725</sup>×0.007184**

(風邪薬や胃薬、降圧剤などは、大人の常用量や子供の量といった用量が設定され、症状により量が調節されます。)

最近開発されている分子標的薬などの投与量は、体重を指標として決められているものもあります。また、投与間隔や投与回数についても、今まで行われた臨床試験から標準的な投与間隔や回数が決められています。

公立昭和病院 外来化学療法室 文責：薬剤師 関根 井澤